

令和7年度上期「ひょうご子ども・若者応援団」一般助成事業成果報告



事業期間 令和7年4月～令和7年9月

【採択件数】30件

【決定額】3,644,000円


【実績件数】29件 1件については、実績報告書の提出がなかったため、手続き要領Ⅱ-2に「助成事業の遂行、事業の取消」2(5)に基づき、取消処理を行った。

【確定額】3,279,000円

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
1	一般社団法人一般社団法人リア充ひょうご (神戸)	<p>① 獲って触って食べて大感動！須磨の海を知る地引網体験</p> <p>② 多種多様な海洋生物が獲れ、実際に手で触り、海洋生物専門家によるレクチャーを受けることで、兵庫の海のゆたかさを知り、自然や環境、漁業を身近に感じてもらった。 獲れた魚をさばき、須磨海苔などとともに食することで食育を育み、地産地消を体験した。 火起こし体験で火を起こす感動を全員で味わえた。自然界における摩擦のエネルギーについて、体験を通して学ぶことができた。</p> <p>③ 青少年が地引網や火起こし体験を通じて、共同作業での楽しみや連帯感を感じた。 ボランティアとして参加した高校生は予期せぬ事態や想定外の出来事に対応する力を身に着けた。 ボランティアスタッフとして参加した高校生が運営全般に関わり、リーダー養成につながった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
2	特定非営利活動法人 ほっとネット373 (西播磨)	<p>① アサギマダラ保護子どもプロジェクト</p> <p>② 5月7日 法人理事会で事業説明と協力依頼を行い承認を得る。 5月8日</p>

事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
	<p>事業計画について打合せ。学校 2 名、法人 1 名、地域 1 名で事業目的、内容、スケジュール、費用について打合せ</p> <p>5月10日 事業実施用農地について、所有者の承諾を得る</p> <p>5月12日 アサギマダラとフジバカマについて勉強会を行う。環境保護やアサギマダラの生態について学習する。子ども 20 名、会員 1 名</p> <p>5月20日 フジバカマの挿し木講習と挿し木づくり。子どもたちが挿し木してその後の生育を観察する。以後の管理は学校と法人で分けて管理する。子ども 20、会員 5、地域住民 2 人</p> <p>6月16日 フジバカマを棚田に植え付ける。子どもたちと地元住民 6 名、法人会員 7 名で農地に 240 本を植付を行う。</p> <p>6月18日 フジバカマの苗を子供が家へ持ち帰り、家族で育てて、家でもアサギマダラが来るのを待つことで家族との取り組みをする。</p> <p>9月9日 学習会でいい匂いがすることの説明から、子どもたちがフジバカマを使って、臭い袋をつくる事に取り組んだ。フジバカマを刈り取り、提供した。</p> <p>10月14日 アサギマダラの観察会とマーキングを行う。アサギマダラの移動について勉強をする。今年も9月も猛暑が続き、20日頃に来ていたアサギマダラは見られないので</p> <p>10月5日に 14 か開催を決定した。子ども 20 人会員 6 人、地域住民 5 人</p> <p>③ アサギマダラとフジバカマについて学習を行い、絶滅危惧種と環境保護について学ぶと共にアサギマダラの生態について学ぶことで命の大切さや自然について関心を持つことが出来た。実際に自分で挿し木したフジバカマを管理することで育てることを学んだ。自分たちが育てたフジバカマの苗を現地に植えることで達成感を感じれた。また、地域住民や法人会員と一緒に作業することで高齢者との世帯間交流の場となった。</p> <p>自宅に苗を持ち帰り、家族と共に育てることでアサギマダラの飛来を待つ楽しみを持つことが出来た。</p> <p>観察会では実際にアサギマダラを捕獲して観察を行うと共に羽にマーキングすることで南の地域で再捕獲されるかもしれない</p>

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>というロマンを持つことが出来た。子どもの家庭でもフジバカマを植えたので来るのを楽しみに出来たことや実際にアサギマダラが飛来した子供もいた。</p> <p>今回は学習会の後で子どもたちに課題をだしてやりたいことを考えてもらった。学習会の後で全員が大きな紙に絵を描く案とフジバカマがいいにおいがすることを話した中から匂い袋をつくる案が出たが匂い袋を作る事になった。</p>
<p>3</p>	<p>特定非営利活動法人 You a Family Club 障害者・ 児家庭自立支援 (神戸)</p>	<p>① 春の活動 協力して助け合ってクルーザーを楽しもう！</p> <p>② 障害者・児及びその家族に対して、教育や認知などの啓蒙に関する事業を行い、障害・児に対する自立支援に寄与することを目的としております。</p> <p>この度ご縁を頂き、障害のある子ども・若者が日ごろ体験できないクルーザー・ヨット体験をさせて頂くことになりました。</p> <p>「安全・協力」をキーワードに、障害ゆえに体幹の発達が十分でない子ども達に、船上でバランスを取る感覚を通して体幹を養いながら隣人・友人達と自然を満喫し、自己と他者両方の感情理解を行う。</p> <p>“楽しい” “揺れたときのスリルと不安” “水しぶきや大海原で風に吹かれる感覚” “等という自然が与えてくれる事象に対し、各々が抱く気持ちや感情を共有し、多岐にわたる語彙をふんだんに使用し、参加者相互のやり取りが行われるように支援する。活動前に参加者全員に対して入念な事前学習を行うことで活動へのイメージを膨らませ、コミュニケーション能力を育み、クルーザーとヨットに乗る経験を通して日常では味わえない「快」の経験や豊かな感情をも養い身に着けることを目的とした活動にしたいと考えております。</p> <p>また、活動日の一日を通して、参加者全員が何らかの形でリーダー役を行い、人前に立ち話す経験を持てる様に配慮することで、言葉の使い方、場によって発する音量の違い、他者に話をする時の留意点などへの気づき等を体感してもらいます。</p> <p>③ 活動場所が海上ということで、まずは命を守るための教育を丹念に繰り返した。全員がしおりに記載された注意事項を守り、非日常的な貴重な体験を経験することが出来たことは本当に嬉しい。どのような障害があっても、相応しい言動や行動を、各々が会得しやすい情報提供にすることで、障害のある自分にわかる指示を出してくれる NPO との信頼関係が更に育まれることに繋がっていく。「また乗りたい！」と全員が思い口に出してくれ</p>

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>たことは私達の達成感にも繋がっていき、またどこにも見当たらない素敵な活動の検索をしようと勇気づけられる結果となった。活動終了後のフィードバックの際にも、実体験した感動や喜びを意気揚々と言葉にしたり、しおりのフィードバックのページに鉛筆を走らせる様子はこれまでの成果の蓄積を感じさせ感動を覚えた次第です。</p>
<p>4</p>	<p>姫路グローバルウィズメンズクラブ (中播磨)</p>	<p>① 第6回ひとり親家庭のお子様限定「楽しさいっぱいデイキャンプ」</p> <p>② ひとり親家庭の子どもさんたちを招待してのキャンプも今年で6回目を迎えた。 今年も色々な生活体験を受ける機会がどうしても少なくなる子どもさんたちが、この夏 キャンプ場で思う存分遊び、心に残る思い出をしっかりと作ってほしいと願って開催した。</p> <p>③ キャンプリーダーのもと、火おこしやカレーの具材を切るなどの飯盒炊さんの貴重な体験をすると共に、自然の中でのびのびと遊び楽しいひと時を過ごせた。 初めて出会うリーダーや友達と仲良くできた。保護者の方たちもひと時のゆっくりした時間を持つことができ喜ばれた。</p> 
<p>5</p>	<p>KOBE マリンカップ (神戸)</p>	<p>① KOBE マリンカップ</p> <p>② 兵庫県で活動する小学生バレーボールチームが参加し、常盤アリーナという大型の体育館で、思いきって「チャレンジし・体験できる」機会を提供することができた。兵庫県小学生バレーボール連盟への登録の有無に関わらず広く募集することで、レベルの差や地域の枠を越えて対戦し、交流を深めることができた。当初の予定 23 チームをはるかに超える 39 チームから応募があり、抽選にて 16 チームに絞ったが、神戸市中央区、西区、灘区、長田区、北区、須磨区、垂水区、三田市、加古川市、淡路、宝塚市、神崎郡、小野市、朝来市、笹山市など広範囲にわたってこの助成活動を知ってもらうことができた。</p>

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>③</p> <p>チームを立ち上げてまだ3カ月の新人チームが初めての大会として参加して下さって「チームとして長く心に残る最高の記念大会になりました」という感想を頂いた。特に今回は、これまでにないぐらい幅広い地域から、それぞれ個性の違ったチームが参加して、普段は交流のない団体同士が情報交換をすることができ、より良い刺激となって、今後の活動の励みとやる気に繋がった。子ども達のプレイを見ても日頃の実力以上を引き出すことができ、普段の活動では経験できない大きなステージとなった。</p> <p>さらに、ライセンスを取得している審判指導員による審判講習会を同時に開催できたことで、当日の試合進行がトラブルなくスムーズになり、子ども達が安心してプレイすることができた。指導者も子ども達も正しいジャッジを学ぶことで試合に対して真剣に取り組もうとする意識に変わり「毎年改正される部分も学び直すことができて良かった」とうい声があった。</p> <p>マリニックップでは「体罰のない適切な指導」を目標としているため、ひょうご子ども若者応援団の助成事業であることを通知し、周知して頂くことにより、子ども達の健全育成に真摯に取り組む場として、指導者の意識改革と指導力向上に結び付けることができた。(審判指導員：神戸市小連審判委員長、丹有小連審判委員長ほか)</p> <p>小学生が参加しやすい夏休みの大会としての開催で熱中症の不安が1番大きく、大型体育館のため空調設備費が高額になってしまうが、助成により空調を整え子ども達が安心してプレイに集中することができた。</p>  
<p>6</p>	<p>KOBE のはしっ子 (神戸)</p>	<p>① KOBE のはしっ子 公園遊び</p> <p>② 子どもたちが様々な場所で自分のやりたい遊びを自由に選択してできるように、しゃぼん玉、絵の具、昔遊び、楽器遊び、焚き火、キッズスペースの場を展開した。また、地域の個人や団体の協力で、竹の製作や生き物観察・泥団子づくりなどの自然体験、</p>

事業実施団体
(管轄地方青少年本部)

①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果

英語タイム、公園ライブラリーなどの様々な体験ブースを展開し、体験の場をより充実させることができた。5月～9月には水遊びも行った。



4月27日(日):子ども72

人+大人80人+スタッフ8人・計160人参加。神出中学校吹奏楽部と神出っ子隊バンドによる楽器演奏も実施。

5月18日(日):子ども73人+大人80人+スタッフ9人・計162人参加

6月22日(日):子ども60人+大人70人+スタッフ8人・計138人参加。

8月3日(日):子ども55人+大人60人+スタッフ6人・計121人参加。ナイトピクニック(暑さを避けて夕暮れから実施)、花火も行う。

8月30日(土):子ども73人+大人80人+スタッフ6人・計159人参加。ナイトピクニック、花火や虫探しも行う。

9月23日(祝):子ども72人+大人80人+スタッフ6人・計158人参加。先取りハロウィンイベント開催。

シニアや学生のボランティアの方に毎度来ていただき、子どもたちと一緒に絵の具や水遊びを行うなど、多世代での交流に取り組んだ。アウトドアの得意なシニアの方には焚火を手伝っていただき、薪を集めた子どもたちと、焚き火を通して交流ができるような工夫などを行った。4月は神出中学校にも協力いただき、吹奏楽の演奏や、ボランティアによる遊びのサポートなど、中学生と幼稚園児や小学生が関わる機会をもつこともできた。すべての活動の最後にドッジボールを行い、幼稚園、小学生、大




学生、大人などその日公園に集まった全員で一緒に遊ぶ時間をつくることで、個々の遊び場では交わりのなかった子どもたちが、一つの遊びによって、年齢や校区をこえて関わる場面が生まれた。

③

普段閑散としている身近な地域の自然公園に毎回親子で100人以上の参加者を集めることができた。子どもたちは、普段なかなか関わり合うことが少ない大学生世代やシニア世代と一緒に、

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>絵の具や水鉄砲で思いきり遊ぶことができ楽しかったとの声があった。夏休みのナイトイベントも、薄暗闇でのドッジボールや花火など、珍しい思い出として心に残ったようだ。夏休みの宿題の絵日記に書いて学校に提出した子もいたと聞いている。専門の講師の下での虫探しは、西神中央公園にどんな虫がいるのか、どのような所に虫が隠れているのかなどを学ぶこともできた。多世代交流としては、シニアの方々も子どもたちと顔見知りになるほど関りが生まれた。また、西神中央公園に初めて来た英語の先生が、とても居心地がよく、過ごしやすい公園であることに感動し、今後英語の先生同士の集まりをこの公園で開催したい、といった声も伺った。</p>
<p>7</p>	<p>ガールスカウト兵庫県第6団 (阪神北)</p>	<p>① ガールスカウト兵庫県第6団 準備舎営・準備キャンプ</p> <p>② 募集方法：全スカウトに紙とデータでチラシを配布し、スカウトの保護者から、お友達に配布して誘ってもらうよう、直接、またはLINEにて依頼した。 一般の年長児2名及び小学5年生1名が、体験を兼ねて参加された。 本行事の前に、ガールスカウトの他の行事、集会を体験され、趣旨・目的を十分お分かりいただいた上で、参加される旨を決められた。 事業内容：本年度、年少部門（小学校3年生以下）は、新たに入団された方が多く、親と離れて不安な気持ちもある中で、たくさんの方が集まり、一般の方も2名参加して下さいました。 自然の中での遊びや、ポイントラリーなどでは新たな発見や達成感をたくさん味わうことができ、泊をともにすることで、友好が芽生えた。 年長部門（小学校4年生以上）は、野外活動経験豊富なスカウトがたくさん参加し、テント設営から野外調理まで自ら積極的に動き、計画通りに進めることができました。野営初心者や、一般参加の1名の方も、野営の面白さを味わうことができました。</p> <p>③ 本行事に参加された一般の3名の方の内、特に年長児2名は、親と離れての宿泊自体が初めての体験で、多少不安はあったものの、リーダーとの楽しい自然体験、年上のスカウトとの交流などを通じて、生き生きと活動に参加できていた。 既存のスカウトたちも、新しいお友達を迎えて緊張もあったと思うが、優しく受け入れ、時に意思疎通がうまくいかないこともあったが、リーダーのサポートもあり、うまく乗り越えられた。</p>

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>結果、3名とも正式に入団を決断され、新たな仲間が増えることとなった。</p>
<p>8</p>	<p>佐野和太鼓クラブ (淡路)</p>	<p>① 和太鼓を地域の架け橋に！</p> <p>② ・毎週日曜日 15～17時、講師をお招きし、さの小テラス（主に音楽室）での和太鼓講座の開催をした。世代を超えて和太鼓や、日本の伝統文化に触れる機会を提供した。また、地元の祭等への出演もこの半年で過去最高の7回にも及んだ。</p> <p>・今まで来てくださっている講師に加え、パソナ和太鼓集団「鼓淡」から古谷優介氏の他、上田秀一郎氏、五十嵐広大氏、「國生み太鼓保存会」から柏木秀樹氏の他、鯛泰子氏、田中ひとみ氏にも来ていただき、色々な方のご指導を受ける機会を得た。</p> <p>・新しく、「佐野柴右衛門狸音頭」という地元の名所をテーマにした曲を作っただき、私たちのために和太鼓演奏の曲もつけていただいた。現在練習中である。</p> <p>③ ・今までは出演したことのない地域のイベントにも招かれて出演したことで、新たな方との出会いや、今まで知らなかった地域のイベントの発掘、淡路島のよさを再発見することができた。</p> <p>・和太鼓を通じて新しい仲間ができた。また息を合わせて演奏し、舞台上立って曲紹介もすることで、協調性や、人前に立つ度胸もついた。</p> <p>・地元の名所をテーマにした曲の演奏を重ねることで、地元への愛着と、地域の良さをPRしていきたいという気持ちが芽生えた。</p>  
<p>9</p>	<p>日本ボーイスカウト宍粟第1団 (西播磨)</p>	<p>① 木曾駒ヶ岳登山</p> <p>② ボーイスカウトの隊員が中心となり、登山計画の素案を作成しました。2024年8月より約1年にわたり、インターネット情報等を利用し、実施日時の検討（過去数年間の天候より判断）をしたり、現地</p>

事業実施団体
(管轄地方青少年本部)

①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果

交通機関(登山バス、ロープウェイ)の運航時刻や経費の確認、登山時の時間的なペース配分、登山装備、安全対策、等について話し合いをおこないました。また、木曾駒ヶ岳の成り立ちや、固有の動植物など自然環境や保護活動の実態などについてまとめ、参加者説明会での資料としました。



さらに、2025年4月からは参加者個々の登山ペースや体力を知ってもらうために、一般参加者も含め、国見山や氷ノ山など合計4回の登山訓練を実施するなどして木曾駒ヶ岳登山に備えました。


③


この度の登山では、参加者54名中50名が登頂出来ました。うち、参加した子ども25名(スカウト13名、一般12名)においては、23名が登頂することが出来ました。(親子2組4名は登頂手前で体調不良で断念。)子どもたちは、事前に勉強した登山時のマナーやルールを守り、他の登山客とすれ違うたびに気持ちの良いあいさつをしたり、準備した資料にある植物の名前を確認したり、リーダーに尋ねたりしながら元気に登ることが出来ました。特に上級生は他の者を気遣っての声掛けや体調の確認をしながら登山しました。低学年のスカウトや一般参加の子どもたちは、普段見ることのない絶景や珍しい植物、とりわけ途中で出会ったライチョウの親子や山岳結婚したウエディングドレスのカップルとの遭遇などに驚きや喜びの声をあげていました。帰宅後には、最後まで自分の力で大人たちについて登山し頂上に立った事を楽しそうに話したようで、保護者からは精神的にも体力的にも達成感や自信、満足感を味わうことが出来た楽しい登山になったようですとの声をいただきました。


素案を立てたボーイスカウト隊員は、無事に登山できた事を評価しつつ、異年齢の参加者や多人数での行動の難しさなどにつ



いて話し合い、今後同様なケースや、スカウト活動、学校、部活など団体生活においても今回の経験を生かしたいとの意見が出ていました。

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
10	五斗長まちづくり協議会 (淡路)	<p>① 五斗長たまねぎまつり</p> <p>② たまねぎ早食い競争に大人に混じって参加(次回は、子どもばかりのグループを検討)運び競争には、一輪車のロープを引くことに参加し、ゲームを楽しんだ。 弥生体験では、匂玉づくりについて、保護者やスタッフの力を借りながら、一生懸命作製に打ち込んでいた。遺跡建屋の中では、火起こし体験や鉄器づくりにも熱心に取り組んだ。また、弓矢づくりでも、紙コップや紙の棒、粘土の矢で弓矢を作り、的に向かって当てようと集中していた。もちまき、お菓子まきでは、子どもゾーンでたくさんのお菓子、おもちゃを拾い喜んでた。 これらのイベント等に参加しながら、保護者、スタッフなど、大人との交流をし、自然の中で、景色を見、アーティストの歌や音楽、パンクミュージックを聞きながら、たまねぎ販売、重さ合わせ、詰め放題などもみつつ、楽しい時を過ごした。</p> <p>③ 自然に恵まれた、五斗長垣内遺跡の広い舞台上、一日、あるいは、半日、一定の時間帯で、好天気の中、のびのびと楽しい時を過ごしてもらえた。 早食い競争のたまねぎがおいしかったことや、まがたまづくりに集中できたこと、イベントでの様々な体験が、子どもたちの心に残り、淡路島たまねぎのことや弥生体験を通して良い体験ができた。 参加者からは、どの体験も、良かったことの評価をいただいている。これらの体験を通して、良い思い出とともに、いささかでも弥生時代の遺跡や弥生体験が記憶に残ってくれて、社会科の学習、歴史の学習に生かさせることも期待している。</p> 
11	じいちゃんの手づくりおもちゃ (阪神南)	<p>① じいちゃんの手づくりおもちゃ</p> <p>② 7月1日、17日、23日、25日、29日 8月2日、5日、8日、22日 尼崎市、西宮市の団体等に、おもちゃづくり体験会を実施した</p>

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>③ 県立尼崎小田高校の先生の依頼で、看護類型とボランティアグループ50人にじいちゃんの手づくりおもちゃを指導しました。教わった生徒たちが上記事業に各回4人づつお手伝いをしてくれました。子どもたちにやさしく、丁寧に指導していました。大変助かりました。 じいちゃんの手づくりおもちゃを継続してゆくのには良い方法だと思いますし、続けていきたいです。</p>
<p>12</p>	<p>こどもみらいクリエイティブ共同事業体（中播磨）</p>	<p>① こどもフェスティバル 2025～こどものこどもによるこどものための「チルフェス」～ ② 今年は、「こどものこどもによるこどものためのチルフェス」と題して子どもたちが日頃頑張っていることを発表し、子どもが主役のフェスティバルを開催した。 ・高校生等による合唱や演奏。 ・高校生・地域団体による工作や手作りお菓子の販売。 ・ツリーイング・アイロンビーズ・TANOなどの体験あそびブースの出展。 など、12ステージ、24ブース出展し、小中高校生約250名が活躍した。 ③ ステージ・ブースで活躍する学生たちにとっては、日頃頑張っていることを人前で発表する機会になり、来館する子どもたちにとっては、輝いているお兄さんお姉さんの姿を見て目標を持ったり、年齢を超えた交流をすることができた。 館内館外至る所で子どもたちの笑顔があふれ、「大きな紙に今日の思い出を描こう」では、すてきな思い出やありがとうの気持ちがたくさん描かれていた。</p> 
<p>13</p>	<p>上ヶ原南地区青少年愛護協議会（阪神南）</p>	<p>① 地域交流サマーフェスティバル ② サマーフェスティバルの準備において実行委員は高齢が目立ち70～80歳が多い中、関西学院高等部ラグビー部の学生63人が手伝いに来てくれ、猛暑でありながらきびきびと仕事してくれた。夕方からの祭り開催中は、夜店の関係の青少年が販売の</p>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		<p>手伝いや看板などをもってお店のPRをしてくれた。また、夜店では西宮BBS(大学生)がポップコーンを販売し、地域の人との交流を深めた。ステージの司会進行は関西学院大学放送部が受け持ち、上手に時間をまもりながら進めた。ステージの出演では、西宮市立西宮高校のダンス部・関西学院吹奏楽部が出演し、祭りを盛り上げてくれた。さらに、翌日の片付けには、西宮市立西宮高校野球部の30人が手伝いに参加してくれた。以上のように地域・関係者の青少年が多く関わることで運営に大きな支障が出ることなく、地域と諸関係者との関係を再認識できた。</p> <p>③ コロナ以降6年ぶりの開催となったので、小学生・中学生はプログラム配布時から興味関心を持っていた。又地域の人たちからもサマーフェスティバルの復活を期待している話をよく聞いた 開催日には多くの子ども達・家族連れで運動場はいっぱいになり、夜店のゲーム・飲食物を楽しんでいた。またステージの演技にも注目し、演技を見る人も多かった</p>
14	NPO 法人 アトリエ・Petata (神戸)	<p>① 絵本が落語になっちゃった</p> <p>② 『落語が絵本になっちゃった!』 講師：落語家・桂 雀喜さん/絵本作家・あおきひろえさん 落語家・桂 雀喜さんの新作落語『聞き耳トーマス』を原作に、絵本作家・あおきひろえさんの絵と文章で描き下ろされた絵童話『ききみみトーマス』(あかね書房)を中心としたイベントの開催</p> <p>■桂 雀喜さんによる原作の落語。 ■絵本作家 あおきひろえさんによる絵本と落語の即興ライブペイント ■絵童話『ききみみトーマス』の原画展 ■扇子と手ぬぐいを使ってうどんを食べるしぐさ、それが何に見えるかなどを想像しながら 見立て道具として物語を演じる落語の所作を実際に体験して学ぶワークショップ 該当事業に参加の青少年は、落語、絵本の読み聞かせ、絵本の原画などにより日本文化や絵本を体感しながら、扇子と手拭いを使ったワークショップに取り組み、世代間交流・地域交流や読書活動をおこないました。</p> 



	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>③ 申請時の事業の目的は、 『落語が絵本になっちゃった!』のタイトル通り、落語家・桂 雀喜さんの新作落語『聞き耳トーマス』を原作に、絵本作家・あおきひろえさんの絵と文章で描き下ろされた絵童話『ききみみトーマス』(あかね書房)を通し、絵本や噺家の話術で、想像力豊かに楽しむ。 また、文字活字、人の話しに親しむ時間を持つことにより、目に見える結果だけではなく想像することをいとわぬ力を育むことを目的としている。 さらに、日本文化に親しむ、絵本の原画を見ることにより印刷物ではない実物に触れる、落語家や絵本作家からの視点で語られる話を知る機会を持つことを目的とし、世代間交流・地域交流や読書活動に繋がることが期待できる。 としていましたが、実際に体験するところにより、申請時の想定を超える成果があったと考えられます。</p> 
<p>15</p>	<p>北河原子ども会(阪神北)</p>	<p>① 鯉つかみ大会 ② 1 川中にネットで囲み、その中に緋鯉を放流、つかみ獲り。 5分間でその数を競う。 2.ゴムボート2台、プラのタライ3台で約100mの川下り。 3.スーパーボールすくい、金魚すくいをしてその合計数を競う。 ③ 自治会の努力で年々、駄六川がきれいになってきた。せっかくの自然資源の活用は地元の者としては是非とっており、子ども達の自然資源の活用は地元の者としては是非とっており、子ども達の自然体験がおかげ様で今年も実施できた。 子ども達が楽しく活動しているのを見て、親や役員もうれしい。</p> 
<p>16</p>	<p>佐用子ども将棋教室(西播磨)</p>	<p>① 第11回脇坂安宅杯争奪将棋トーナメント ② 将棋好きな子どもが日頃の練習の成果を試す大会で成績を競い</p>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		<p>合いました。又、大会とは別に子どもの参加者には全員、日本将棋連盟所属の女流棋士による指導対決を受け、今後の課題や助言・アドバイスをいただきました。</p> <p>③ 伝統文化「将棋」を次の世代に継承していただく意味で子どもたちが将棋を学び、棋力を向上させ、益々夢中になっていただくことを目的に、将棋大会を開催しています。今回、将棋大会に初めて参加して知らない相手と将棋を通して友達になった子どももいました。</p> <p>憧れのプロ棋士にも指導していただき、「うれしかった!」「憧れる!」などの声も耳にしました。</p>
17	ファープルのたまご(阪神南)	<p>① 虫好き中学生によるぼくらの虫展 等</p> <p>② 「ぼくらの虫展」では虫に詳しい年齢が近い虫好き中学生から虫の詳しい話を聞いたり、普段触ることができない虫に触ったり蝶テントでは蝶と触れ合えた。また、ミニセミナーでは標本作成や幼虫の飼い方説明、昆虫採集道具のレクチャーなどを行い、自然を身近に感じることができた。展翅板製作・標本作成イベント、展足板製作・標本作成イベント、では事前予約された小学生とその家族に対して中学生が座学と実技を通して虫の採り方から育て方、標本作成の仕方、保存の仕方までレクチャーした。</p> <p>ライトトラップイベントでは事前予約された小学生とその家族と一緒に夜の光に集まる虫の観察と同定まで一緒に行うことができた。</p> <p>③ ぼくらの虫展では虫に触れなかった子が誇らしげに触って見せてくれたり、訪れた家族全員で虫とのふれあいを楽しんでいる様子がうかがえた。確実に虫好きをイベントを通して増やすことができおり、未来の自然を大切に思う人を増やす活動になっている。</p> 

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>また、このことはファープルのたまごのメンバーである虫好き中学生がやりたかった、虫好きな子を増やしたい、そのために主体的に動いてイベントを実施したいという思いを実現させるものになった。この活動は彼らの全人間的な大きな成長となった。</p>  <p>また、ファープルのたまごが虫好き中学生が自分たちの好きや、好奇心を継続して持ち、仲間と切磋琢磨できる虫好き中学生のベース基地にもなった。</p>
<p>18</p>	<p>特定非営利活動法人 いちごいちえ(神戸)</p>	<p>① 子供たちの抹茶サロン</p> <p>② 今回は、児童養護施設の学生は高校生対象とし、自尊心を得るように。普通高校の学生は卒業後の社会に出てからの強みとして、茶道初級の資格を促した。文化祭では、緊張しながら各々の役割を果たした。 事務所でのひとり親家庭子供の茶道体験は、チラシだけでは集客があまりなく、大いに反省すべき課題があった。</p> <p>③ 学生たちは自分たちで茶会ができることに自信と自尊心を持てた。養護施設の子供たちは、お互いを思いやるしぐさ、気配りが身についた。事務所での子は、まじめに取り組み感覚で、茶道を身につけた。</p>
<p>19</p>	<p>絵本とお歌の会(阪神南)</p>	<p>① 平和の歌を歌おう2025</p> <p>②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新旧の日本の歌、ウクライナの歌、英語の歌を0歳から81歳が一緒に歌い、演奏した。 2 ウクライナの若者からウクライナについて話、曲の歌詞について説明を聞いた。迫害され続けた歴史を聞いた。 3 ウクライナ伝統の「生命の木」を描いた。先祖～自分～子孫、過去～現在～未来、月と太陽、鳥の意味を聞き、描き方筆使いを習い絵を完成させた。 4 花冠を作った。色に込めた意味を聞く。自身でデザインし決定しながら各自思い思いの花冠を完成させた。 5 タンドラム・カリンバを弾いた。 6 スティックでリズム体験をした真似ながら皆で一つのリス 



	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>ムを作った。少しずつ難しいリズムに挑戦した。</p> <p>③ 参加者等の評価「とても楽しかった」「また来たい」「こんなに長く子どもが居たがると思わなかった」「普段はしない夫が子どもと一緒に花冠を作っていました」「音楽のある空間でたくさんの方々と接することができて0歳の娘が楽しいそうでした」「連れて行った友人親子が喜んでいました」「孫が次回も行きたいと言っています」「みんなで歌うっていいですね」「大変貴重な機会をありがとうございました」「ウクライナの人の歌声も素晴らしかったです」「バイオリン、三線も聴けてよかった」「子どもが楽しんでいた」 昨年の参加者が友人を連れて参加していた。</p> 
<p>20</p>	<p>越木岩青年会 (阪神南)</p>	<p>① サマーフェスティバル・イン越木岩</p> <p>② 越木岩青年会ジュニアとして参加している中高生は、開催の約1か月半前から看板製作に励んだ。デザインから塗料の手配まで自分たちで行い、様々な案を出し合いながら学校・学年の異なる仲間たちと一つになって取り組んだ。今年度は各バザールブースの看板に加え、入場口に設置するために大きなベニヤ板をつなぎ合わせた大看板を初めて製作した。会場を華やかに彩っただけでなく、会場前を通る一般の方々にもインパクトを与え、来場者からお褒めの言葉をいただいた非常に意義のある作品となった。</p> <p>事業当日は、本会会員は本部ブースでのお客様対応・場内アナウンス、ステージ進行等を担当。越木岩青年会ジュニアのメンバーは、バザールブースでの接客を中心に、ステージ進行の補助をしたり子ども会の小学生とともに盆踊りにて太鼓をたたいたり、本事業の主軸を担ってくれた。</p> <p>また越木岩センター準備委員会と実施した『越木岩と〜くバト</p> 



	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>ン』には本会実行委員長も参加し、対話を通して地域との繋がりを強化した。ステージ演出では各種学校や有志団体に出演いただいただけでなく、地域の中学校・高校から参加いただく『頭脳校』というイベントを実施。実施場所である北夙川小学校の生徒だけでなく、運営・来場者含めて様々な学校の学生が関わり合うことができた。</p> <p>③</p> <p>地域で活動している団体や各種学校にバザール出店をしていただくことで、相互コミュニケーションの促進を図り地域コミュニティのさらなる活性化に寄与できたと考える。</p> <p>ステージ演出では、地域の団体や子どもたちによる発表の場を設けるだけでなく、多くの来場者と一緒に大きな輪を作りながら盆踊りを行い、地域の伝統文化に触れる機会を提供できた。今回 6 年ぶりに屋外ステージを復活できたことで、最大約 500 名の来場者がステージを囲んで鑑賞するという大きな盛り上がりを見せ、出演者および来場者から屋外ステージ復活への喜びのお声を多数いただくことができた。</p> <p>また、本事業を同級生との再会の場としてくださっている方も数多く見受けられたため、多くの方々に受け入れられ、地域に根差した継続すべき事業であることを再認識することができた。越木岩青年会ジュニアの中高生からも、「来場者に喜んでもらえて嬉しかった」「会場が一体となって盆踊りができて楽しかった」という声が上がった。看板製作と並行して盆踊りや太鼓の練習に励んだり、自らが挑戦したいことを選んで当日の役割り・仕事を決めたりするなど、学校生活とは一味違った経験を通して主体性を育む取り組みとして確立することができた。</p>
<p>21</p>	<p>ルンバルンバ(中播磨)</p>	<p>① 無人の砂浜から大脱出!離島の自然体験で SDGs を学ぶ</p> <p>② カヌーやメガ SUP を使用し、自力で無人の砂浜へ移動。シーグラスの色を何種類見つけられるかを課題にして、出発地点まで戻ってきてもらいました。参加人数が予想より多かったので、安全面を考慮し 2 組に分けて、課題を 1 つに絞りました。2 組に分けることでカヌーをしていないグループには地元の漁師の協力のもと、定置網で獲れた魚を生きたまま子ども用プールに泳</p>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		<p>がせて、ふれあい体験を実施。調理できる魚は買い取って、調理体験も実施。泳いでいた魚を捌いて食べることも体験しました。</p> <p>③</p> <p>楽しく遊ぶためにキレイな海を残す、美味しく魚を食べるためにキレイな海を残す。という「海の豊かさ」を大切にしたい気持ちを持っていただけたと思います。シーグラスの色に着目することで、どんな瓶やガラスが海の中でシーグラスへと変化していったかを考えてもらい、シーグラス拾いと一緒にプラスチックや缶のゴミも拾ってもらうことで、楽しくゴミを拾う活動に繋げることができました。魚のふれあい体験では、回転寿司やスーパーで食べる状態になった魚が生きている姿を見て、触れてみることで大きさや重さを感じてもらうことができました。高学年の子どもには魚を実際に捌いてもらい、みんなで食べました。今まで魚が苦手な子どもも今回のイベント通じて、魚を食べることに興味を持ち、食べることができるようになったとの感想もいただきました。</p> 
22	わかば子ども食堂（阪神南）	<p>① 青少年の社会参加、リーダー育成、世代間・地域間交流</p> <p>② 高校生を中心メンバーとし、出店の企画、買い出しなどの準備や店舗運営、を実施。中学・高校生、地域住民で当日の早朝から会場設営の準備を実施。 店舗、会場の受付、自転車置き場の誘導。地域住民のお店でも急遽ヘルプに入るなど緊急対応も行った。</p> <p>③ 昨年、一昨年と続けて参加している学生も増えてきているので、後輩指導をする姿をよく見ました。 また、自分たちで準備した祭りで、ほかの学生や児童たちが楽しく喜んでいる姿を見て、達成感を得ていたと思います。だからこそ、自分たちも交代で屋台を楽しんでいました。</p> 

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
23	NPO 法人 KOBE とまり木 (神戸)	<p>① 夏休み体験型プログラム～TOMARIGI WITH～</p> <p>② プログラミング、ドローン体験、ロールケーキ作り、謎解き、電子廃材を使ったキーホルダーづくり、空気砲の6つのプログラムを開催し、それぞれで体験をしていただきました。 「考えるプロセス・時間の使い方・表現力の向上・問題解決能力・創造的な発想」などが身につくことを目的とした内容となっており、夏休みの時間を有効的に使いながら、お子様の本質的な成長に繋がる機会を提供いたしました。 どのプログラムでも笑顔のお子さんが多く、楽しく参加していただきました。</p> <p>③ 5歳～中学2年生までのお子さまに127名にご参加いただきました。 ドローン操縦体験では情報処理能力を、プロのパティシエによるロールケーキ作りでは衛生観念を、空気砲づくりでは流体力学を、廃棄処理となった基盤から電子廃材を取り出して作るキーホルダーではSDGcを学んでもらいました。 分からない点は積極的な質問を促し、主体的にプログラムに参加していただきました。 ジャンルの違うプログラムを開催したことにより、色々なことに興味を持ってもらう機会を作ることが出来ました。</p> <div data-bbox="576 1305 930 1632" data-label="Image"> </div> <p>アンケートにご協力いただいた73名の方に、10段階評価で平均9.7の評価をいただきました。 次回も参加したいというお声もたくさんいただきました。</p>
24	なないろルーム(阪神北)	<p>① 繋がりの輪をひろげよう</p> <p>② 子どもたちの居場所ふくりとして、放課後支援を月に2・3回行いました。子どもたちは工作や調理の活動をみんなで行いました。 子どもと大人でクッキングを月1に1回お昼の時間に行いました。主な活動が本格的な調理活動となるので、みんなでレシピを調べたり、お昼ご飯のおかずを作ったり、デザートを作ったりし</p>

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		<p>ました。梅シロップ作りや麴調味づくりなどの手作業体験も行いました。</p> <p>農業体験活動は月に2回程度行いました。草抜き、土づくり、種まき、水やり、収穫などをこどもたちと行いました。</p> <p>③</p> <p>放課後支援やこどもと大人でクッキングでは、最初はつながりがなかった子ども達も複数回参加することでコミュニケーションが生まれるようになっていきました。</p> <p>家では調理をあまりしないという子ども達も「初めて包丁を使った！」</p> <p>「お菓子作りはじめてした！」と話し、新しいことにチャレンジする喜びを感じているようでした。工作や調理では、一人では難しいことも他の子に声をかけたり、協力したりすることで、繋がりが広がっていきました。</p> <p>こどもと大人でクッキングでは、未就学児も多いことから包丁も使わない手作業体験やお菓子作りも取り入れ、手の感触や食材の変化を見て、感じて、楽しんでいました。</p> <p>農業体験では、日ごろスーパーで売っている野菜の実りを初めて見る子どもも多く、新しい発見や感動を味わっていました。</p> <p>野菜の収穫までに土づくりの大変さや夏の雑草の手入れなど、大変な仕事も実感していました。</p> 
25	かこっこ（東播磨）	<p>① 苔テラリウムワークショップから学ぶ兵庫の自然と植物の魅力事業</p> <p>② 兵庫県は自然豊かな地域ですが、なかなかその自然に触れる機会の少ないのが現状です。親子を対象に、兵庫県産の苔を使いテラリウムのワークショップを体験し、その後も自宅で苔テラリウムを育てることで、身近な自然に興味を持ち、兵庫にある自然を大切にする心を育てる機会と目的としました。</p> <p>③ 参加者された方には非常に好評であり、「また参加したい」「加古川でこんな取り組みが合って嬉しい」と概ね好評でした。親子で1つの作品に向き合い、コミュニケーションを取りながら作業を真剣に進めており良い体験の提供ができたと感じました。</p>

26	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p> <p>また、兵庫県で苔リトリートツアーなど、自然を楽しむ企画を行っている講師が、作業の合間に兵庫県や日本各地の(ご本人が撮影した)苔の写真を見ながら苔の魅力を語って下さり、親子で自然に対する興味を持ってもらえた様子でした。</p> 
	<p>にしのみや遊び場つくろう会 (阪神南)</p>	 <p>① 子ども夏祭り</p> <p>② 事業内容—第1部水でっぽう大会、第2部こども夏まつり(小1~中2の子ども達が、自分たちで考えて準備した模擬店で遊び、食べ物の模擬店は今回は大人が運営した)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の発案: 普段のプレーパークの活動に参加している小中学生が「夏まつり」を提案した。 ・内容を考える: 日程も含めて、彼らが主体となって考えた。 ・毎週土曜日の集まり: 毎週土曜日のプレーパーク開催日の15時から集まって、具体的なことを決めたり準備をしていった。 ・模擬店の準備: 出店の内容、当日の準備物などを話し合い、自分たちで作ったりした。 ・前日の準備: 自分達の模擬店の準備だけでなく、会場設営なども大人と協力して準備した。 ・当日の模擬店の運営: 当日は想定したよりも参加者が多く、模擬店の運営は多忙を極めた。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が大変喜んで参加した(詳しい感想は添付の通りだが、子どもだけでなく保護者達大人も楽しそうに参加していた。 ・小中学生が企画運営したが、1, 2歳児も沢山参加し、世代を超えた催しとなった。 ・企画遠泳した子ども達は、達成感を大いに感じ、今後の活動にも期待が持てると思われる。 ・参加者も子ども達の頑張りを認め、プレーパーク活動の理解につながった。

	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>・国有地プレーパークに参加したことがなかった子どもや保護者も、その後訪れるようになった。</p> <p>・スタッフの大人たちも沢山の参加者に驚くとともに、活動を地域で支えてきたことを個々が感じ、今後も活動を支えてくれると思われる。</p> 
<p>27</p>	<p>網干片岡庄屋塾 寺子屋教室 (中播磨)</p>	<p>① あぼし日曜朝市「子ども朝市」</p> <p>② 毎月第3日曜に商店街で行われる「あぼし日曜朝市」の協力を得て、不特定多数の子どもが朝市を手伝う就労体験を行い、来場する地域住民との交流を図る。</p> <p>また、「あぼし日曜朝市」にあわせて、地元消防団員から子ども達への防火講習と消防車見学による防災意識の向上と交流の取り組みを行う。</p> <p>③ 就労体験に参加した8人の子ども達は、店主に見守られ「初めて栓抜きを使って、面白かった」「たくさん売れた」など初めての経験を楽しんだ。</p> <p>慣れてくると積極的に呼び込みをするなど、自らできることを考えて行動する様子も見られた。来場住民は、子どものペースにあわせて商品説明を聞き、商品を受け取るなど、和やかな交流が生まれた。</p> <p>防火講習では、消防団や防火に関するお話、水消火器による的当て、消防車見学などを楽しみながら、防災について学んだ。</p> <p>猛暑日の開催となったことから水消火器は大好評で、多くの子どもが遊び感覚で操作を体験した。6台並んだ消防車は壮観で、各車に分かれて子どもが個別に消防団員の話聞くなど、密に交流することができた。</p> 
<p>28</p>	<p>特定非営利活動法人 国際教養教育交流協会 (東播磨)</p>	<p>① AICC 子ども農園</p> <p>② 【1. 事業の内容】</p> <p>本事業は、地域における青少年の健全育成と自然体験学習の促進を目的として、NPO 法人国際教養教育交流協会 (AICC) が、</p>

<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
	<p>5年以上放置されていた農地を再生・活用し、「AICC 子ども農園」として開設したものである。</p> <p>子どもたちが農業や自然とふれあい、命の循環・労働の尊さ・食の大切さを学ぶことを目的に、年間を通じて段階的なファームレッスンを実施した。</p> <p>I. 子ども農園の運営準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加希望者を募集し、人数に応じて農地の賃貸借契約を締結。各参加家族単位で区画を分けて管理。 ・農家および専門家の協力を得て、土づくり・畝立てなどの基礎耕地作業を実施。 ・第1回「農業講座」を開催し、子どもたちに農業の基本と有機栽培の意義を学ばせた。 <p>II. 子ども農園の運営と管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは各家庭とともに、自分の区画のデザインを考え「DIY 農園」を設計。 ・栽培したい野菜を自ら選び、その特徴や育て方を事前学習したうえで、専門家の指導を受けた。 ・夏野菜の育苗を開始し、畑への移植を体験。第2回「農業講座」にて、病害虫対策や成長管理の難しさを学習。 ・水やり・追肥・草取りなどの作業を通して、日々の管理と観察を行い、自然の変化を体感した。 <p>III. 子どもが収穫を近隣住民に享有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫期を近隣住民に情報を発信、収穫した野菜と喜びを近隣住民に享有した。 ・子どもたちは商品化・販売の視点から、収穫後の整頓・出荷準備を学んだ。 <p>IV. 収穫体験および収穫祭の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回「農業講座」を実施し、農家と専門家の指導のもとで収穫作業を体験。 ・収穫祭では、地域および海外の子どもたちを招き、同じ食材を用いて国際色豊かな料理体験を実施。食文化交流を通して、多文化理解を深めた。収穫後は、農地の整理・片付けを専門家の指導で実施し、自然を大切にする意識を育んだ。 <p>③</p> <p>(1) 教育的成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕地から収穫・販売までを一貫して体験することで、子どもたちは「食ができるまでのプロセス」を実感し、農業・自然への



	<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
		<p>関心を高めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業の学習を通して、環境保全と持続可能な社会の重要性を理解した。 ・農作業・収穫体験・国際交流を通して、主体性・協調性・創造力・表現力 が育まれた。 <p>(2) 地域連携・社会的効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農家・近隣住民・地域ボランティアが協働し、地域ぐるみの青少年教育モデルを形成した。 ・家庭単位での参加により、親子の絆が深まり、地域住民同士の交流も活発化した。 
<p>29</p>	<p>芦原地区子ども会連絡協議会 (阪神南)</p>	<p>① 「山東自然の家」で自然を学ぼう！</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは自分自身で準備などの身支度ができるようになる。子どもだけの部屋で寝泊まりすることが楽しみ。 ・初めていろいろな体験することが楽しみ。何事にもチャレンジして自信を持てるようになりたい。 ・山東自然の家は自然が多く、多彩な野外活動ができる場所で都会にはないものがたくさんあり、子どもの好奇心を旺盛にする。チャレンジしたい気持ちになりたい。 ・一緒に参加した友達だけでなく違う友達もできることに期待している。 ・周辺和学校からも参加があるので地域間交流ができ、自然な交流を深められる。 ・野外活動リーダーを依頼し、子ども達に野外活動の楽しさを知る。  <ul style="list-style-type: none"> ・野外炊事では、包丁を使う、マッチを使いカマドで火を扱う等、家庭や学校では出来ない体験をする。大人のサポートを極力減らし、安全の見守りのもと、自ら考えて行動・調理を行う。 <p>・グループワークをすることで班活動の協力と分担を体験・交流</p>

<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
	<p>し出来上がった時の達成感をわかちあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマゴつかみでは、命の大切さ「いただきます」の意味、生きることは他の命をいただいていることにきづく。魚は骨や内蔵があるため嫌う子供が多いが自分で捕まえた魚を食べて命の大切さをしる。じっくり炭で焼くことで遠赤外線的作用でおいしくなることも知る。 ・自然散策では作られたものではない自然の中にあるすばらしさに気付く。自然の怖さも知る。 ・キャンプファイヤーでは火を囲み異年齢の仲間と親睦を深める。火の怖さを知る。リーダーのすばらしいファイヤーパフォーマンスをみてカッコイイと感じ、リーダーのようになりたいと思う。 ・全体のプログラムで班活動をする事で、いろいろな気付きをしる。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が多くバスの1人は補助席を使うことになったので、リーダーがすわってくれたが、「補助席は疲れた。」の意見あり、次年度は定員にすること。定員オーバーは補欠対応する。車酔いの子供が多く「前の席に座りたい。」と言い少し手間取った。 ・中学生のダウン症の男子、中学生の女子4人の参加があり中学校の先生も参加することになった。 ・幼児から中学生の参加であったが班活動は活発で野外炊事焼きそばも大人は見守ることに徹していたが早い時間に出来上がり「自分たちで作った焼きそばは格別」と感想あり。おかわりもよくしていた。出来上がって達成感を持っていた。どの班も「とてもおいしい。」と言っていた。普段食べない子供もよく食べた。 ・自由時間では個人の興味にあるものに参加、自然散策では多くの虫や動物を捕まえて「これって何？」と大人に聞いて納得していた。本を確認する子供もいた。みずあそびでは水風船を500個以上作り先生も参加して、投げ合ってびしょ濡れになるまで楽しんでた。自由遊びはブロック遊びを協力しあって大きなお城を作っていた。助け合いながらいろいろ興味のあるものに分かれて交流を深めた。 ・キャンプファイヤーでのリーダーのファイヤーダンスもかっこよく「すごいパフォーマンスにびっくり」と感想をいって



<p>事業実施団体 (管轄地方青少年本部)</p>	<p>①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果</p>
	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲良くなった学校も学年も違う友達と一緒に眠れたことは楽しかったようだ。 ・朝の体操はソーラン節で盛り上がった。「布団や部屋の片付けは来た時よりもきれいにする」の通り頑張っていた。 ・アマゴつかみは魚を手づかみできず、タモですくっても嬉しかった。自分で捕まえたときの達成感があったようだ。魚はよく逃げて段々数が少なくなり余計に取れなくなり苦戦した。 ・じっくり炭で焼いて遠赤外線効果もありすべてを食べることができた。焼きをする子供も多く暑い中、火のそばで頑張っていた。上手に焼けたと自慢気だった。頭から食べた子供も多くいた。「アマゴがおいしい、もう 1 匹食べたい。」という子もいた。 ・アレルギーがひどい子供がいたが現地でも対応してくれたのでみんなと同じように楽しめていた。事前の対応が大変だったが喜んでもらえてよかった。 ・解散式では、「また参加したい。」「来年も参加します。」とリーダーと line 交換していた子が多数いた。 